

臨時増刊号

市町村立図書館等活動支援誌

あけぼのつうしん

No.74

2021年2月16日発行

〔目次〕

■ 令和2年度全道図書館長会議に寄せられた質問から

- 質問1 電子図書館（電子書籍）の導入状況について p1
- 質問2 資料のデジタル化について p4
- 質問3 地域、地元商店街と連携した取組について p5
- 質問4 学校と連携した取組について p8
- 質問5 コロナ禍における図書館（室）の取組について p12

北海道立図書館



令和2年度全道図書館長会議 に寄せられた質問から

去る11月20日に開催を予定しておりました令和2年度全道図書館長会議（主催：北海道図書館振興協議会、北海道立図書館）は、新型コロナウイルスの感染状況を踏まえ中止としましたが、参加を申し込まれた方から情報交換における質問をいくつかいただきました。これらに対する回答について、改めて関係市町村にもご協力をいただき、次のとおりまとめました。今後の図書館（室）運営の役に立てば幸いです。

※各質問での市町村の回答紹介は、順不同です。



質問1 電子図書館（電子書籍）の導入状況について

令和2年11月30日現在、道内で電子書籍貸出しシステムを導入しているところは、札幌市、苫小牧市、天塩町、北見市の図書館（室）でした。このうち、札幌市、天塩町、北見市から次のとおり関係情報をご提供いただきました。

● 札幌市

No.	質問	内容(予算の細目、数値等)	金額	備考
1	電子書籍貸出しシステムの導入費	図書館システムに関する費用に含まれるため算出不可		
2	電子書籍貸出しシステムの維持費	同上		
3	導入システムの名称	TRC-DL		
4	導入時期	平成25年度：システム設計、構築 平成26年度：貸出サービス開始		平成23～24年にかけて実証実験を実施
5	他システムとの比較検討の有無と導入システムを決定した理由	電子図書館サービスを開始した当時、当館が求めるサービス内容を提供する電子図書館システムが無かったため、図書館電算システムの更新の一環として札幌市電子図書館システムを開発した。		
6	契約形態	特定随意契約		
7	電子書籍の資料費	令和2年度予算 09教育費>08生涯学習費>03図書館費>13-01使用料・賃借料	約690万円	
8	電子書籍タイトル数（R1.3月末現在）	8,493タイトル		
9	閲覧利用数（R1年度）	164,064件		
10	ログイン利用数（R1年度）	総ログイン回数：133,538回 ログインID数：15,272		
11	自館で電子書籍化した資料（独自資料）	図書：513件 雑誌（広報誌等の行政資料）：1,192件		
12	コロナの利用への影響	令和2年2月から3月にかけて、貸出数が約2倍に伸び、その後も継続して前年同月より高い水準を保っている。（別紙1）		
13	図書館システムとの連携	有		
14	その他施策について	・独自コンテンツの絵本を使用した読み聞かせ動画を作成、市公式YouTubeチャンネルで公開。 ・令和元年と比べて特に利用の伸びたジャンルについては別紙2のとおり。		

別記1

・令和2年度における電子書籍利用数の対前年同月比

貸出数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
平成30年度 (2018年度)	4,669	4,111	3,932	3,670	3,882	3,157	4,034	4,056	3,867	4,240	3,927	4,866
令和元年度 (2019年度)	4,608	4,179	3,913	3,670	4,084	3,435	3,628	3,643	3,466	3,393	4,612	9,081
令和2年度 (2020年度)	9,276	9,633	5,794	5,044	4,537	4,329	5,606	5,578				
令和2年度 各月の前年比 (増加数)	201% (4,668)	231% (5,454)	148% (1,881)	137% (1,374)	111% (453)	126% (894)	155% (1,978)	153% (1,935)				

(令和2年11月末現在)

別記2

・令和元年に比べ利用が伸びたジャンル（貸出件数で比較）

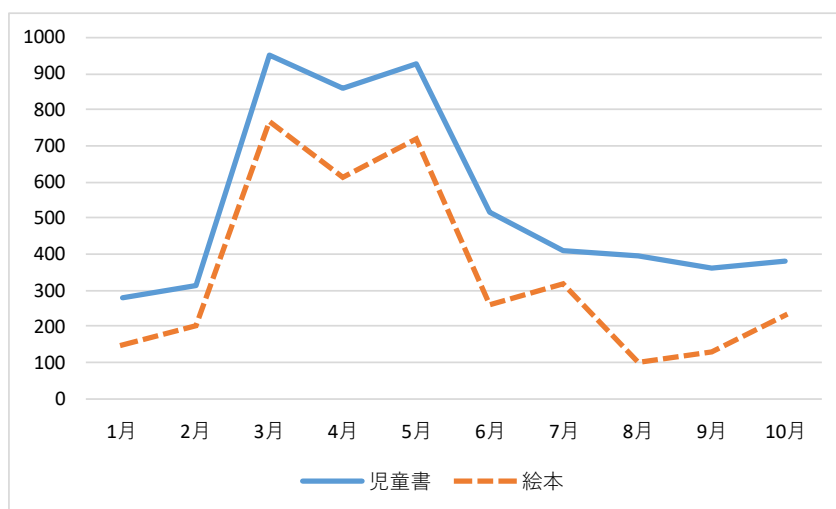
※R1.11：3,643件、R2.11：5,578件の貸出があり、53%増加している。

増加数		11月前年同月比(増加数)	増加率	増加した53%のうち…
1位	食品・料理	278	221%	7.6%
2位	情報科学	98	258%	2.7%
3位	絵本	79	147%	2.1%

伸び率		11月前年同月比(増加数)	増加率
1位	昆虫類	13	1400%
2位	家庭理工学	12	1300%
3位	マーケティング	12	1300%

貸出件数が一番増えた「食品・料理」のうち、最も予約が多いのは『1週間で1500円レシピ 1~2人暮らしの節約ごはん(レタスクラブMOOK)』伊藤 朗子(予約72件)。伊藤朗子、ワタナベマキ、mako、リュウジなどによる著書の人気が高い。

・幼児~中高生向け(絵本からYA)の本のR2.1→R2.10の伸び



※ YA向け資料はジャンル分けされていないため抽出不可

子ども向けの人気作家には特別偏りはない。

令和2年4~10月で最も予約が多いのは、『いちばんおもしろい妖怪図鑑 怖くて面白い絵がたくさん有名“古典妖怪”94体』怪人ふくふく(24件)。また、同期間で少し上の年齢向けの本では香月美夜『本好きの下剋上』シリーズの予約が多いほか、「学校では教えてくれない大切なこと」シリーズも人気がある。

■質問 1 電子図書館（電子書籍）の導入状況について

● 天塩町

No.	質問	内容(予算の細目、数値等)	金額	備考
1	電子書籍貸出しシステムの導入費	初期費用0円、運用費67.5万円、コンテンツ購入費150万円	234.9万円	(内税17.4万円)
2	電子書籍貸出しシステムの維持費	※運用費+コンテンツ(書籍)購入費	33万円	運用費
3	導入システムの名称	Over Drive		
4	導入時期	平成29年4月～		
5	他システムとの比較検討の有無と導入システムを決定した理由	不明		
6	契約形態	委任契約 システム利用料契約		
7	電子書籍の資料費	年間購入コンテンツ費	77万円	税込
8	電子書籍タイトル数（R1.3月末現在）	1,850冊		
9	閲覧利用数（R1年度）	貸出冊数132冊		
10	ログイン利用数（R1年度）	貸出冊数132冊		
11	自館で電子書籍化した資料（独自資料）	なし		
12	コロナの利用への影響	コロナ禍前と比較して利用者の増加傾向にある		
13	図書館システムとの連携	なし		
14	その他施策について			

● 北見市

No.	質問	内容(予算の細目、数値等)	金額	備考
1	電子書籍貸出しシステムの導入費	電算関連委託料	70万円+税	
2	電子書籍貸出しシステムの維持費	使用料及び賃借料	月額10万円+税	
3	導入システムの名称	TRC-DL		
4	導入時期	平成27年度		
5	他システムとの比較検討の有無と導入システムを決定した理由	導入時、自治体導入実績のあるシステムは3つあり、その中から比較検討を行った。 他システムが利用に応じた従量課金制であることから、予算立てが難しいと判断し、定額制の本システムを選択した。 (その後の利用動向を見ると、従量課金制のシステムの方が資料数も多く、コストパフォーマンスに優れていると思われる。予算立てがクリアできれば検討されたし)		
6	契約形態	随意契約		
7	電子書籍の資料費	導入時 200.7万円、 次年度以降は利用に応じ0円～36万円の範囲で購入		
8	電子書籍タイトル数（R1.3月末）	9,546		
9	閲覧利用数（R1年度）	1,167		
10	ログイン利用数（R1年度）	988		
11	自館で電子書籍化した資料（独自資料）	あり（高校生の作った絵本や北見の文学についてまとめたものを電子書籍化）		
12	コロナの利用への影響	利用が10倍以上に増加した		
13	図書館システムとの連携	なし		
14	その他施策について	①自粛期間中は利用登録のない方への電話でのID発行、②市内病院の長期療養患者への期間限定ID発行など		

* 登別市と浦河町では、郷土資料を電子テキスト化し、ホームページで公開しています。また、網走市では、令和2年12月15日に電子図書館を始めました。

質問2 資料のデジタル化について

図書館資料のデジタル化については、栗山町、札幌市、恵庭市、北広島市、石狩市、小樽市、余市町、苫小牧市、帯広市、厚岸町が郷土資料をホームページで公開しています。

また、当館ホームページの北方資料デジタルライブラリーには、旭川市、北見市、滝上町が参加しています。この度、旭川市と恵庭市から関係情報をご提供いただきました。

● 旭川市

旭川市図書館では所蔵の写真資料や古地図のデジタルデータ化を進めています。

寄贈等で収集した古写真（一部絵はがきを含む）約 9,000 点、旧北海タイムス社から譲渡された写真約 15,500 点をデジタルデータ化し、そのうち約 4,200 点を北海道立図書館の北方資料デジタルライブラリーを通じてインターネット公開しています。

また、旭川写真連盟の協力のもと、1979 年以降の毎年6月1日「写真の日」にあわせて市内 21 カ所で定点写真を撮影しています。デジタルデータとして保存しており、旭川の街並みの移り変わりを記録した貴重な資料として活用しています。

古地図については、明治期・大正期・昭和期の旭川の市街図を中心に 25 点をデジタルデータ化し、北方資料デジタルライブラリーで公開しています。

これらのデジタルデータは、旭川市の広報誌をはじめ、テレビ番組や新聞・出版物、市内企業・団体や町内会の記念誌等に幅広く活用されています。

今後も写真資料の整理を進めて、北方資料デジタルライブラリーでの公開点数を増やしていく予定です。

● 恵庭市

平成 28 年度、郷土資料館との連携事業として「カリンバ遺跡と恵庭市史料デジタルアーカイブ」を実施しました。ADEAC（アデアック：デジタルアーカイブシステム）にて、恵庭市史やカリンバ遺跡資料のデジタル資料データ及び土器や漆櫛の 3D データの公開をしています。このデータを活用し、3D プリンタでカリンバ遺跡の漆櫛や土器のレプリカを作成し、各学校図書館に郷土資料とともに設置し、ふるさと教育に役立てています。

また、今年度は図書館や学校図書館システムの更新期を迎えており、新型コロナウイルス対策のため、電子図書館の導入を予定しています。併せて、複合施設の中に立地する恵庭分館にて、カードレス IC 化システムの導入も予定しています。てのひら認証システムと IC 貸出・返却機等の設置により、図書館職員が退勤した後も、複合施設が開館している 22:00 まで本の予約・貸出・返却を行うことができるようになります。今後も、利用者のニーズを捉えながら、地域の情報ハブとしての図書館を目指し、デジタル社会に対応していきます。

※ ADEAC 公開サイト：<https://trc-adeac.trc.co.jp/Html/Usr/0123115100/index.html>

北函振（北海道図書館振興協議会）では、平成 25～26 年度に「資料のデジタル化」をテーマとして調査研究事業を実施しました。その成果として、報告書『ゼロからはじめるデジタル化-小規模図書館でもできる-』を当館ホームページに掲載していますので、ご参照ください。

※ 北海道立図書館ホームページ > 関係団体等 > 北海道図書館振興協議会

質問3 地域、地元商店街と連携した取組について

ここ数年、地元商店街や企業等、他の分野と連携して読書推進を図る取組が道内でも見られます。特徴的な取組として、岩見沢市、恵庭市、滝川市、伊達市、留萌市から関係情報をご提供いただきました。

● 岩見沢市 「図書取次事業（返却スポットの拡大）」

岩見沢市では、誰もが気軽に図書館の本を借りることができるよう、図書の貸出しや返却を図書館本館や分館だけではなく、市内の様々なところでできることを目指して、平成20年から本館から約10km離れた岩見沢市の西端にある幌向地区の総合コミュニティーセンター「ほっとかん」で図書の取次を始めました。

利用方法については、貸出しは、あらかじめ「ほっとかん」の窓口やインターネット、ファックスなどで予約を行い、指定された受取場所に出向いて図書を受け取り、返却については返却ボックスに本を投入することとしています。

その後、市役所サービスセンター3か所においても順次取次を始めたところですが、当時の目標として2km圏内に1か所の取次場所の設置を目指し、市内コンビニエンスストアや小売店等に取次の依頼を行い、承諾をいただいた小売店等を含め、現在市内8か所で図書の取次を行っています。

受け取りは、それぞれ指定された場所で行いますが、返却については、各取次場所に備え付けてある図書返却ボックスや図書館のいずれの場所でも返却をすることが可能です。

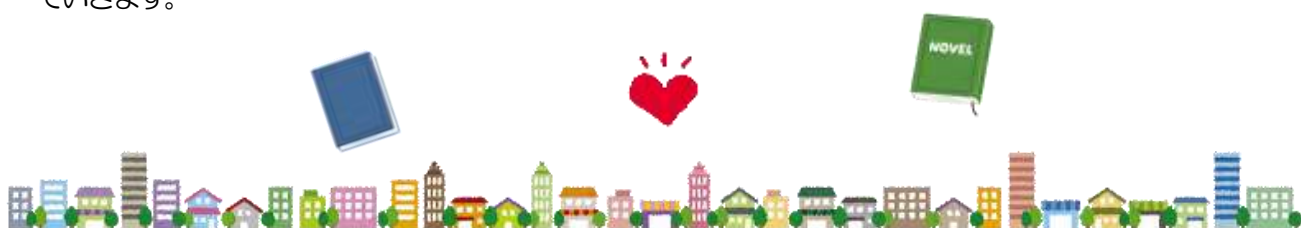
なお、取次業務はすべて無償で行っていただいております。令和元年度は延べ5,636人の方が利用され、9,348冊の貸出しを行いました。

● 恵庭市 「まちじゅう図書館」

恵庭まちじゅう図書館は、平成25年、恵庭市人とまちを育む読書条例の記念事業として始めました。普段は仕事が忙しいが、読書のまちづくりに貢献したいという方や、本が好き、読み聞かせが好きなど、様々な方に参加していただいています。お店やカフェ、オフィスなどのちょっとしたスペースに、店長や経営者、スタッフのお気に入りの本を展示し、訪れた人に自由に読んでもらい、本を通じた会話を楽しむ図書館がまちじゅう図書館です。お店の1つひとつが図書館で、店長1人ひとりが館長です。貸出や規則は館長の胸先三寸です。常連のみ借りられる図書館や、交渉次第などという変わった図書館もあります。

本と出会い、人とふれあう交流型の図書館は、初年度の24店舗から、現在では44店舗までに増えています。また、8月～10月の期間に、まちじゅう図書館館長たち主催の「まちじゅう図書館スタンプラリー」を実施。図書カードや店舗の割引チケット、図書館で自由に展示ができる券などが当たる景品も人気で、今ではすっかり恒例事業となりました。来年度は、人気講師を招待した事業も計画されています。

市では、まちじゅう図書館がこれからも発展していけるよう、情報提供や広報周知などのサポートを実施していきます。



● 滝川市 「まちなかコンシェルジュ」ほか

○ 「まちなかコンシェルジュ」(毎月更新)

お店、団体・グループを紹介。現在は、お店を正職員、団体・グループを会計年度任用職員が取材し、PRポスターを作成し、関連本とともに展示しています。期間終了後は業種別にファイリングし、「まちの情報図鑑」としても活用します。また、図書館ホームページにも「まちなかコンシェルジュ」のページを設け、お店や団体のチラシを掲載しています。

○ 「雑誌ささえ隊」

雑誌スポンサー制度。市内の企業や個人によって雑誌の購読料もしくは雑誌自体を寄贈し、雑誌カバー前面に寄贈社名及び裏面にPRチラシを作成・添付します。現在は購入雑誌114誌中53誌が雑誌ささえ隊によるものです。

また、図書館ホームページにも「雑誌ささえ隊」のページを設けPRチラシを掲載しているほか、トップページ下段に協賛企業・団体のバナーも掲載しています。

○ 書店との連携

読書感想文におすすめの本を、書店・図書館のスタッフが紹介するチラシを作成し、市内の小・中学生に配布。夏休み期間中、書店・図書館ともにおすすめの本コーナーを設置します。

また、出版社と書店、図書館の三者がコラボした展示やトークイベント、販売コーナーを設置します。

○ 「たきかわDE 調べる学習体験講座」(市内施設との連携)

○ 「こわ〜いおはなし会&きもだめし」(お寺との連携)

○ 「古本もってけ祭 in Wai Wai フェスタ」(空知自動車学校との連携)

○ 地元FM局との連携

- ・FM番組「小さな図書室」に出演(月2回)。放送時に紹介した本は展示。
- ・FM局スタッフからのおすすめの本の展示(月1回)。

○ 地域情報ポータルサイト「まいづれ」との連携(月2回以上)

おすすめ本紹介「滝川市立図書館スタッフがおすすめする『今がヨミドキ!』」の掲載。

○ プレス空知との連携(月2回)

おすすめ本紹介「みなきゃ損!イチオシ展」の掲載。

その他、JC(青年会議所)やロータリークラブとも連携して、展示やイベントなどを行っています。

● 伊達市 「地域文庫事業」

地域への読書機会の提供として行っている「地域文庫事業」は現在4か所あり、それぞれの施設管理者と協定を結び、年2回6か月サイクルで250冊の図書を配置しています。配置している期間の図書の管理は施設にお願いしています。

地域文庫名	開設年度	開設場所
黄金	平成21年度	黄金地区コミュニティーセンター はまなす館(南黄金町)
長和地区	平成22年度	長和地区コミュニティーセンター ふれあい館(長和町)
伊達駅前団地	平成24年度	伊達駅前団地1号棟事務所(山下町)
ほのぼの団地	平成26年度	市営住宅ほのぼの団地LSA執務室 (大滝区優徳町)

※「伊達市立図書館概要 2020年度版」より転載

● 留萌市 「三省堂書店留萌ブックセンターとの連携」

平成22年冬、市内唯一の本屋が倒産。翌春、子どもの参考書を買う場所がないことから臨時的に三省堂書店が出張販売所を開設しました。同書店の存続を願い、主婦ら有志7人が「三省堂書店を留萌に呼び隊」を結成して誘致活動を行い、ポイントカード会員を集める手法で人口の約1割2,500人を集め、念願叶って平成23年夏、商圏30万人が出店条件の三省堂書店が開店しました。

出店後は「応援し隊」に名称変更。売り上げアップのため市立病院などで本の出張販売を行い、本好き市民を増やそうと店内で大人向けと子ども向けの読み聞かせを開催しました。

これら一連の取組は、市立留萌図書館の指定管理者であるNPO法人留萌スポーツ協会が、毎月開かれる「応援し隊」作戦会議の場に図書館会議室を提供し、全面的に支援しています。

また、小・中学校の選書を支援するため、書店の協力で学校図書館の担当教諭を対象にしたブックフェア（新刊児童書の現物展示）を図書館で年2回開き、喜ばれています。

書店の周年イベントには図書館長やスポーツ協会職員がボランティアで参加し、図書館まつりでは「応援し隊」の主婦らが出店。綿あめやポップコーンを無料で提供しています。

子どもの読書推進として、書店・図書館共通のスタンプ台紙を作り、子どもたちはどちらに行っても押印でき、10個たまると書店から粗品がもらえるようにしました（本の購入や貸出がなくても押印するため子どもたちに人気）。

書店のイベントで人気絵本のキャラクター着ぐるみ（サンタクロースやティラノサウルスなど）を使うときは、図書館のおはなし会でも披露しています。



※「二度と本屋のないマチにしない」という熱意が根底にあり、「応援し隊」の活動を支えることが間接的に書店の売上を伸ばし、経営の安定につながっています。

● その他の取組事例

○ 雑誌スポンサー制度

（企業・団体等に雑誌の購入費用を負担していただき、提供いただいた雑誌のカバー（最新号）に広告を掲載する制度。）

現在、次の14市町村で取り組まれています。

美唄市、芦別市、滝川市、千歳市、恵庭市、石狩市、新冠町、旭川市、北見市、美幌町、帯広市、中札内村、根室市、中標津町

○ ボランティア活動へのポイント付与

商工会／商店連合会と連携し、図書館のボランティア活動に参加した方へ、ポイントを付与し還元しているところがあります。

- ★ 沼田町：「スノッピカード事業」（商工会のポイントサービス）
- ★ 根室市：「ねむろポイントカード」（商店連合会のポイントサービス）

また、新十津川町図書館では、町保健福祉部と連携し、読み聞かせ事業に参加した方に「得きっずカード」のポイントを付与しています。

質問4 学校と連携した取組について

学校図書館法の改正（平成28年）を機に、各市町村では学校図書館を充実するための取組が積極的に進められるようになりました。その中で、公立図書館との連携を中心に、滝川市、恵庭市、伊達市、剣淵町、紋別市からご提供いただいた事例を紹介します。

● 滝川市 「図書館学級文庫」ほか

○ 「図書館学級文庫」（年4回×10小・中学校）

学校の体育館やプレイルームに約2,000冊程度本を持ち込み、平置きで本を並べ、各学級で利用する本を選んでもらいます。（イメージは道立図書館の「学校図書館ブックフェスティバル事業」）

○ 「学校図書館運営支援」（小・中・高校）

運営相談／図書の分類付けや分類変更、装備の補助／除架／図書室改造／季節の本やおすすめ本コーナーづくり／授業で使える本コーナーづくり／修理講習／ブックカーかけ講習／読み聞かせ講習等で支援

○ 「調べ学習支援」（小・中学校）

調べ学習用図書の貸出（学年単位に調べるテーマに合わせて本を選定し貸出・運搬する。）／調べ学習での受け入れ／図書館訪問の受け入れ／調べる本の活用講座／図書館の使い方講座／POP作成講習

○ 「読書支援」（小・中学校）

読み聞かせ／ブックトーク／アニメシオン

○ 「読書アルバム」（小学校）

100冊まで読書記録を記入できる冊子を児童へ配付しています。100冊読破毎に賞状を授与し、1年間で500冊以上を読破した児童には、3月に教育長表彰を行います。

○ 「おすすめの本のチラシ」の配布（小・中学校）

○ 「連絡会議」（小・中学校）

○ 「滝川市立図書館を使った調べる学習コンクール」（小学校）

○ 「滝川市立図書館活用ガイド」の配布（小・中学校教諭）

その他、単年の取組として、4か国語おはなし会を国際交流員と開催し、巡回展を行いました。令和2年度は、子どもの読書週間時期に「たきかわっ子がえらぶ子どもの本総選挙」を全小学校の学校図書館で同時に行い、読書週間時期に各校図書館で結果発表の展示を行いました。



● 恵庭市 「学校司書の全校配置」ほか

恵庭市では、すべての小・中学校の図書館に専任の学校司書を配置し、月に一度の担当者会議を行うとともに、司書教諭等との合同研修会を年に2度開催し、学校での児童生徒の読書活動を支える取組を行っています。

また、各校の学校司書、司書教諭、ボランティア代表から組織される恵庭市学校図書館活動推進協議会に交付金を交付し、各校でのボランティア活動や読書まつりなどを支援し、各校独自の読書活動を応援しています。

さらに、公共図書館と学校図書館のシステムを連動させることで、公共・学校間はもちろん、学校間も予約や団体貸出、授業支援のための特別貸出を相互に実施しています。貸出本や返却本を火曜から金曜日まで、専用車で毎日配本していますので、突然の要望にも応えることが可能です。また、貸出本を特別な処理をすることなく、そのまま児童生徒に貸出できますので、様々な教科の授業に図書館資料を利活用できますし、クラス全員の児童生徒に本がいきわたるようにバックアップしています。

学校の本の充実には、特別な制度があります。地域の方に応援していただく意味で、「子どもの読書活動を支える寄附制度」による寄附を募っています。市内小・中学校あてにこの寄附をいただく場合、倍額にした補正予算を編成し、学校図書館の購入に充てるものです。

また、別途ふるさと納税で集まった基金で購入した本は、「物語定期便」として各校を巡っています。任意のテーマにそった本を50冊ずつ、各学校に配置し、定期的に巡回させることで、様々なテーマの本が学校図書館に展示され、貸出されることとなります。常に新しい本の展示で、子どもたちを飽きさせませんし、一冊一冊の本の後ろには感想カードが入っており、他校の子とのペンネームでのやり取りなども、密かな人気を集めている事業です。

小・中学校で培った読書活動の芽を高校にも。市内にある道立高校2校にご協力をいただいて、高校ブックラインサービスを実施しています。学校の図書室にOPACを設置していただき、予約が入った本を配本車でお届けするサービスを実施しています。専用袋を用意し、貸出する高校の図書委員にも中身が見えないように配慮しています。また、高校の玄関には図書館のブックポストもあり、いつでも返却可能としています。

ブックスタートから始め、すべての世代の子どもたちに読書活動の推進のための事業を行っています。



● 伊達市 「POP コンテスト」

令和元年度から、市内の小・中学校と高校の児童生徒を対象にしたPOPコンテストを始めました。作成者は他者へのプレゼンする力などが育まれ、POPを見た方にはそれをきっかけに今まで手に取らなかった分野への興味・関心を誘うきっかけになればと行っています。

また、平成30年度の職業体験で高校生が来館したことをきっかけに、令和元年度から市内道立高校の生徒が放課後來館し、自ら選んだお薦めしたい図書のPOPを館内で作成し、展示する試みを行いました。来館者からの評判もよく継続したいと考えていましたが、今年度は、新型コロナウイルスの影響などから実施は見送られています。

● 剣淵町 小・中学校との連携

町内の学校図書館の状況は、次のとおりです。

① 剣淵小学校

児童数104人（11/1 現在）、学校司書配置（会計年度任用職員）

蔵書冊数6,770冊 貸出冊数4,423冊（令和元年度）

② 剣淵中学校

生徒数82人（11/1 現在）、学校司書配置（会計年度任用職員）

蔵書冊数7,482冊 貸出冊数1,813冊（令和元年度）

※ 剣淵高校は、司書未配置、非電算化

蔵書管理については、小学校・中学校とも電算化済みで、蔵書管理システムは「絵本の館」と同じ富士通 iLiswingV3/WebiLis を導入し、バーコードは各学校独自のものを使用しています。

小学校はTRC-MARC、中学校はJAPAN-MARCを使用しています。

図書の購入は、小学校は町内書店より1年に1回、中学校は四半期毎に購入しています。

絵本の館では主に次のような支援を行っています。

- ① 絵本の館利用オリエンテーションを実施（小学校1年生）
- ② 学級文庫用の図書の貸し出し（学期毎入れ替え）
- ③ 学校図書室用の図書の大量貸し出し（学期毎入れ替え）
- ④ 授業用図書の貸し出し（随時）
- ⑤ 教師向けおすすめ図書の紹介
- ⑥ 学校司書の運営相談対応

学校側（児童・生徒）の変化としては、朝読書、学級文庫等の取り組みが始まったことにより読書をする習慣が身についてきました。中学校では、司書が配置されたことで、生徒が自由に図書室へ出入りできるようになり、貸出冊数が増加しました。また、教諭や生徒が学校司書と気軽に相談でき、図書のリクエストがしやすくなりました。

学校図書館との連携のメリットとして、各館（絵本の館・小学校・中学校）が所蔵する図書を全館のシステムで確認できるため、学校で所蔵していない図書を各学校や絵本の館から取り寄せやすくなったこと、学校司書が絵本の館から借りたい図書を絵本の館を経由せず学校のシステムで直接借り受け処理が可能となり、作業が簡略化したことが挙げられます。

一方、デメリットとしては、学校で以前使用していた図書の MARC と現在使用している MARC が別々に存在し、同じ図書でありながら2種類の MARC がシステムに残っているため、別の図書としてシステム上認識されてしまうことが挙げられます。



● 紋別市 「学校図書館司書配置」ほか

○ 学校図書館司書配置

平成 25 年度より市内小・中学校に学校図書館巡回司書を配置し、令和元年度まで2名体制で学校図書館の図書整理や環境整備を行ってきました。

令和2年度は、学校司書が2名から5名へ増員され、市内3小学校に常駐司書各1名、3小学校、3中学校へは巡回司書2名を配置しています。また、市立図書館から学務課に事業が移管され、学校教育支援の充実を図ることになりました。常駐司書のいる小学校では、開館時間の延長、授業支援や貸出冊数の増加と常駐配置の効果が出ています。3学期より大規模中学校へ巡回司書が毎週3日訪問し、中学校図書館の充実を図ります。

○ 学校図書館システム導入

平成 30 年度に市内9校へ学校図書館システム「Tool-i-s」を導入しました。

図書資料の電算化、貸出返却、統計業務の利便性が高まりました。市立図書館システム更新時には連携を前提としたシステムの更新を検討しています。

○ 学校図書館整備事業

学校図書館の図書購入費は、毎年学級数に応じた学校配当予算で対応しています。しかし、図書購入内容は偏りや更新がされないなどの課題も多く、調べ学習用資料は高額なため配当予算では購入できない学校もありました。

平成 30 年度から令和2年度において学校図書館整備事業として 3 か年で約9百万円の図書購入費が計上されました。学校図書館の図書達成率 70%を目指し、学校司書が選書し、調べ学習用図書の充実を図っています。ほぼすべての学校で 70%を超え、現在の学習指導要領に沿った図書の充実ができました。

今後は、古い図書の更新を行うため鮮度調査を基に、継続した予算獲得を目指して調整しています。

○ 今後の取組

学校と学校図書館運営について、意見交換ができるよう共通のマニュアル作りや、校務支援システムを利用して授業支援事例の公表、教職員に向けた学校図書館の図書紹介など、教職員への情報発信に力を入れていきたいと考えています。



北図振（北海道図書館振興協議会）では、平成 29～30 年度に「公立図書館による学校図書館への支援」をテーマとして調査研究事業を実施しました。その成果として、報告書『いま公立図書館に求められる学校支援とは -アンケートから見えてくるもの、実践事例に学ぶこと-』を当館ホームページに掲載していますので、ご参照ください。

※ 北海道立図書館ホームページ > 関係団体等 > 北海道図書館振興協議会



質問5 コロナ禍における図書館（室）の取組について

まだまだ、収束の兆しが見えないコロナ禍ですが、各図書館（室）においては、感染拡大の防止に努めながら様々な取組が進められています。その事例の一部については、『あけぼのつうしん No.71』（2020.7.14発行）、『北海道立図書館報 No.209』（2020.9.16発行）で紹介しましたが、管内での取組について八雲町から情報をご提供いただきました。

● 八雲町 渡島管内図書館振興協議会研修会

コロナ禍の中、今回の研修会開催の可否について思案にくれながらも、感染状況に応じて柔軟に対応することとし、管内11市町から多数の要望が寄せられた「新型コロナウイルス感染症対策」をテーマとして準備を進め、北海道立図書館市町村活動支援事業（相互協力促進事業）を活用して次の内容で開催しました。

1. 講演「コロナ禍での図書館サービスから考えるこれからのあり方」

講師 北海道立図書館企画支援課長 宮本 浩

（休館・制限開館中にも工夫を凝らし住民サービスを展開した図書館（室）の事例ほか、図書館サービスの創造に向けた再考など、現状を俯瞰して見直すマクロ的な情報提供。）

2. コロナ対応・談

函館市中央図書館／北斗市立図書館／森町図書館／八雲町立図書館

（国・道の情報提供のほかコロナ対応方針に倣い、未知の対応を手探りながら真摯に講じた各館奮闘の経緯を実務レベルで振り返る各論的な情報提供。）

3. 意見交換・質疑応答



【八雲町立図書館】
緊急事態宣言解除後（令和2年6月）の図書館開館と感染症対策を伝えるポスター

新型コロナウイルス感染症の長期化も視野に入れて、関連情報の収集と徹底した感染予防対策や備えが求められる一方で、恒常的な図書館（室）運営と利用者サービスを継続していくためには、職員構成・予算・施設規模等、おかれた環境の中で、通常業務と並行して行う感染対策作業によって負担が過剰に陥らないよう、バランスを図っていく視点も必要となります。

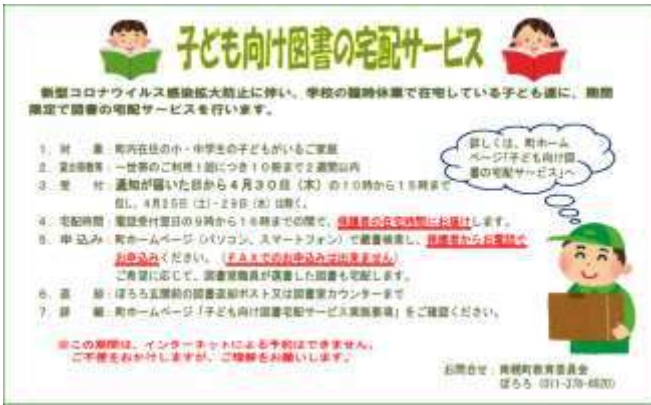
当日はコロナ対策を講じた中で、管内市町より26名の参加者があり、講演の中で講師が話された「今だからこそ、利用者目線で図書館サービスを考えること」「地域における図書館の役割」の重要性を改めて再確認するとともに、各図書館（室）が知恵をしばり工夫を凝らした日々の実践など、多くの情報を共有する貴重な機会となりました。

今後もそれぞれの市町においてよりよい図書館（室）の運営や図書館機能の利用促進、さらなる地域住民の読書活動につなげていくために、この管内のネットワークを大いに生かして取り組んでいきたいと思っております。

● その他の取組事例

渡島管内図書館振興協議会研修会で紹介した道内市町村の取組（一部）です。

○ 宅配サービス・配本サービス



南幌町生涯学習センターぼろろ図書室

○ 動画で読み聞かせ



帯広市図書館「Webでおはなし会」

○ 情報発信！コロナと共に生きる



比布町図書館

○ ブックパックなどのアイデアで



訓子府町図書館



稚内市立図書館



士幌町しらしみ図書館

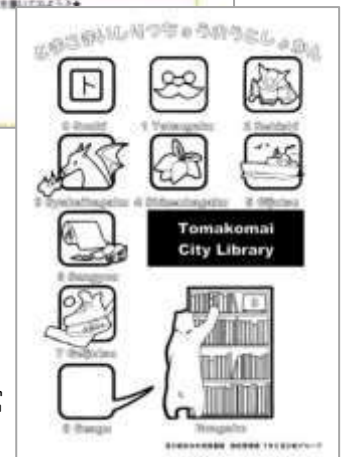
○ 学習支援・ステイホーム支援



町立様似図書館
「おさんぽ BINGO」



むかわ町立穂別図書館



苫小牧市立中央図書館
「オリジナル塗り絵」



全道図書館長会議にあたり質問をお寄せいただいた皆様、回答にご協力いただいた皆様、ありがとうございました。

今回の質問に関する内容はもちろん、それ以外でも、みなさんの図書館（室）の情報もお寄せください。

『あけぼのつうしん』読後の感想もお待ちしています。

→ shienka@library.pref.hokkaido.jp



あけぼのつうしん No. 74 臨時増刊号

発行日 令和3年(2021年)2月16日

編集 北海道立図書館総務企画部企画支援課

発行 北海道立図書館

〒069-0834 江別市文京台東町 41 番地

TEL 011-386-8521

FAX 011-386-6906

ホームページアドレス <http://www.library.pref.hokkaido.jp/>